

IUPAC賛助会員委員会

IUPAC Company Associates Committee

IUPAC賛助会員委員会 参画企業

花王株式会社
株式会社島津製作所
住友化学株式会社
ダイキン工業株式会社
高砂香料工業株式会社
中外製薬株式会社
東レ株式会社
株式会社 東レリサーチセンター
富士フイルム株式会社
三菱ケミカル株式会社
(2026年1月時点, 五十音順)

問い合わせ:
日本化学会 IUPAC賛助会員委員会担当
Email: iupac-ca@chemistry.or.jp



IUPAC賛助会員委員会

IUPAC Company Associates Committee

■ IUPACとは

国際純正・応用化学連合 (International Union of Pure and Applied Chemistry: IUPAC) は、基礎・応用化学分野の教育研究のコミュニティーを代表する国際組織です。1919年の設立以来、化合物命名法、測定法の標準化、化学用語や記号、原子量など、世界共通の基準(共通認識)の構築を担ってきました。IUPACの活動は、世界各国の化学者による自発的なボランティア活動をベースとしています。

■ IUPACと日本

化学の発展に貢献するため、また日本の国際的な存在感を高めるため、多数の日本人化学者が無償でIUPACの活動に参画しています。特に、日本化学会からは、長倉三郎 東京大学名誉教授がアジア初かつ日本人として初めて1981-1983年にIUPAC会長を務め、また巽和行 名古屋大学名誉教授が2012-2013年に同職を務めました。2028-2029年にはクリスティーン・ケイコ・ラスカム 沖縄科学技術大学院大学教授がアジア初の女性としてIUPAC会長に就任予定です。

■ 113番元素ニホニウムとIUPAC

IUPACは、IUPAPと共同で新元素113、115、117、118番の発見を正式に認定し、発見者らに新元素の命名権を付与するとともに、提案された新元素名称の審査並びに最終承認を行うという、極めて重要な役割を果たしました。新元素113番の発見は、日本の理化学研究所・仁科加速器研究センターの森田浩介博士を中心とした研究グループによって成し遂げられ、上述の審査過程を経て、2016年11月に「ニホニウム (Nihonium: Nh)」として国際的に発表されました。113番元素の命名権が日本に与えられたことは、日本の学術にとって極めて意義深い出来事でした。

■ IUPAC賛助会員委員会 設立経緯

長倉三郎 東京大学名誉教授がIUPAC会長に就任されたことを受け、IUPAC関連の国内外の活動支援を目的として、1981年、有志企業が出資する「IUPAC賛助会員委員会」が日本化学会に設立されました。

■ 主な支援内容

IUPAC 関連の国内活動(委員会、シンポジウム、各種イベント等)への財政面での支援に加え、IUPAC 総会への若手研究者派遣を支援しています。また、IUPAC Company Associates (CA: IUPAC 賛助会員)¹として、IUPAC 本体の活動を財政面で支援しています。これらの支援活動について、年に1度活動報告を受けるとともに、意見交換が行われています。²

¹ IUPACのHPIにてCA企業名が公表されています。

² 詳細は「■ 主な活動」に記載しています。



IUPAC CA

■ 年会費

年会費は20万円です。IUPAC賛助会員委員会の積立資産として管理・運用されています。積立資産の管理および使用については、IUPAC賛助会費積立資産規程およびIUPAC賛助会員委員会規則に基づき、次年度予算をIUPAC賛助会員委員長および日本化学会常務理事が作成し、賛助会員委員会において審議・決定されます。本予算にもとづく通常の支出等は、所定の申請書を提出し、IUPAC賛助会員委員長の決裁を経て執行されます。

■ 主な活動

・日本化学会において年に1度開催されるIUPAC賛助会員委員会において、国内のIUPACメンバーと情報共有および意見交換を行っています。³この委員会では、産業界および学術界からのメンバーが一堂に集まり、IUPACの各部門や専門委員会での議論内容、IUPAC World Chemistry Congressにおける講演内容等が紹介されます。これらの情報共有および意見交換は、非常に有意義であると参加者から高い評価を得ています。

・国際的な舞台での活躍が期待される若手化学者に「IUPAC賛助会員委員会IYCAJ賞」⁴を授与し、若手化学者のIUPACへの参加を後押ししています。

・IUPAC賛助会員委員長は、IUPACのCommittee on Chemistry and Industry (COCI: 化学と産業委員会)⁵の会員としてIUPACの産業分野との連携を深める活動に関与し、2年に1度開催されるIUPAC総会および理事会に参加しています。

³ 欠席の場合は委任状の提出をお願いしています。

⁴ IUPAC賛助会員委員会 International Young Chemist Award in Japan (IYCAJ賞)



⁵ COCI



IUPAC



IUPAC



公益社団法人

日本化学会



日本化学会

日本化学会は、会報「化学と工業」にて、IUPAC関連の活動報告「IUPAC通信」を連載しています。